

公益財団法人損保ジャパン環境財団

平成23年度（公益財団法人移行後第1期：7月～3月）事業報告

1. 事業の概要

平成23年度の事業活動の特色は、次の3点になります。

- (1) 「CSOラーニング制度」(※注)においては、震災の影響により例年に比べ1ヶ月程度開始時期が遅れたものの、41のCSO団体へ64名の大学生・大学院生の派遣を行いました。
- (2) 「市民のための環境公開講座」においては通年講座9回の開催のほか、新たな受講者層の開拓を視野に入れ、特別講座4回を開催しました。また12月には「東日本大震災復興記念シンポジウム」を開催しました。
- (3) 「企業と環境問題研究会」においては、本年度からの研究テーマ「気候変動への『適応』～主として自然災害リスクへの対応～」について研究会を発足し、計6回の研究会を開催しました。

※注：CSO=Civil Society Organization 市民社会組織の略。NPO・NGOを包含する概念。

事業のあらましは次のとおりです。

(1) 環境保全活動に活躍する人材の育成支援

(事業予算計2,313万円、実績計2,424万円)

① 「損保ジャパンCSOラーニング制度」の実施（予算2,100万円）

大学生・大学院生に対する環境CSOでの活動による人材育成、及びCSOに対する支援を目的とした本プログラムは今年で12年目となりました。3月11日に発生した東日本大震災後の影響により、募集時期を例年より1ヶ月程度遅らせて実施しました。2011年7月～2012年1月末までインターン活動をする学生を公募し、4地区合計41のCSO団体で64名が参加しました。

地区	応募者数		合格者数	
関東	83名	(昨年76名)	31名	(昨年32名)
関西	28名	(昨年46名)	16名	(昨年20名)
愛知	15名	(昨年22名)	11名	(昨年10名)
宮城	8名	(昨年11名)	6名	(昨年8名)
合計	155名	(昨年155名)	64名	(昨年70名)

本年度の運営では、学生自らが課題を考え外部に発信する機会として「チャレンジ企画」を各地区において実施しました。小学生と一緒に農業を体験し食の大切さを伝える野外講座や、震災ボランティアに興味のある大学生を集め情報提供を行うセミナー、環境に配慮したエコクッキングの実践や染物など主婦の知恵を集めたエコ講座、津波による被害を受けた町の復興を支援する「復興支援観光MAP」の作成などを行いました。

また、9月下旬には「アサザ基金の活動を学ぶ合宿」を行い、活動の「理念」を学ぶことの重要性を学生が学ぶ機会となりました。アサザ基金代表の飯島博氏からアサザ基金の理念と活動方針を聞き、霞ヶ浦を中心とした循環型社会づくりの現場を体験しました。

9月には関東・関西・愛知・宮城地区全てのインターン生・チューターが一堂に会する全国合宿を実施しました。ここではまず、ラーニング生同士が議論してインターンシップでの課題を明確にしました。また外部講師として藤村コノエ氏（NPO法人環境文明21共同代表）、田村康弘氏（損保ジャパン執行役員・コーポレートコミュニケーション企画部長）を招いたほか、環境問題に関するディスカッション、今後の目標設定などを行い、その後のインターンシップ活動がより充実としたものとなる機会となりました。

2月には、ラーニング生それぞれが自分の経験・学びを整理し振り返るための「修了レポート」を作成しました。

関東地区では、新たな田んぼの取り組みとして茨城県牛久市の耕作放棄地の復田を行いました。NPO法人アサザ基金との協働により実施し、初年度の収穫に至りました。収穫したもち米は、霞ヶ浦での漁師や地元の中学校、福祉作業所と製造過程を協働で行い、「つながりの輪風（わふう）せんべい」と名づけたせんべいを作り、地域の循環型社会づくりを体験する機会となりました。

CSO名	人数		
	奨学金	単位	合計
(関東地区)			
1 アサザ基金	2	0	2
2 ECOPLUS	2	0	2
3 オイスカ	1	0	1
4 オーシャンファミリー	1	0	1
5 環境エネルギー政策研究所	2	0	2
6 環境ビジネスウィメン	1	0	1
7 環境文明21	2	0	2
8 共存の森ネットワーク	1	0	1
9 国際自然大学校	1	0	1
10 コンサベーション・インターナショナル	2	0	2
11 シーズ・市民活動を支える制度をつくる会	1	0	1
12 持続可能な開発のための教育の10年推進会議(ESD-J)	1	0	1
13 ジャパン・フォー・サステナビリティ	1	0	1
14 JUON NETWORK	1	0	1
15 樹木・環境ネットワーク協会	1	0	1
16 新宿環境活動ネット	2	0	2
17 WWFジャパン	2	0	2
18 日本エコツーリズムセンター	1	0	1
19 日本環境教育フォーラム	2	0	2
20 日本自然保護協会	2	0	2
21 バードライフ・インターナショナル・アジア・ディビジョン	1	0	1
22 パブリックリソースセンター	1	0	1
関東地区計	31	0	31

(注)「奨学金」は活動に対し奨学金を支給する学生を示し、「単位」は奨学金を支給しないが、大学から単位が認定される学生を示す。

CSO名	人数		
	奨学金	単位	合計
(関西地区)			
1 愛のまちエコ倶楽部	1	0	1
2 安曇川流域・森と家づくりの会	2	0	2
3 大阪自然環境保全協会	2	0	2
4 大阪みどりのトラスト協会	1	0	1
5 環境市民	2	0	2
6 気候ネットワーク	2	0	2
7 京都モデルフォレスト協会	1	0	1
8 こども環境活動支援協会	2	0	2
9 地球環境と大気汚染を考える全国市民会議事務局	1	0	1
10 日本ウミガメ協議会	1	0	1
11 びわこ豊稔の郷	1	0	1
関西地区計	16	0	16
(愛知地区)			
1 オイスカ中部研修センター	3	0	3
2 地域の未来・志援センター	2	0	2
3 中部リサイクル運動市民の会	2	0	2
4 パートナーシップサポートセンター	2	0	2
5 藤前干潟を守る会	2	0	2
愛知地区計	11	0	11
(宮城地区)			
1 仙台いぐね研究会	2	0	2
2 環境会議所東北	2	0	2
3 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク	2	0	2
宮城地区計	6	0	6
総合計	64	0	64

今年度で、CSOラーニング制度の卒業生は合計660名となります。今後も特徴ある環境教育・人材育成のしくみを目指し、一層の制度の充実、推進を図ってまいります。

②CSOによる人材育成事業等への助成（予算100万円）

CSOが自ら行う人材育成事業に対して、5件（63万円）の助成を行いました。

（単位：万円）

団体名	プロジェクト名	実績
1 地域の未来・支援センター	『聴く、書く、感じる、みえてくる～ファシリテーション入門講座～』	5
2 青森大学大学院	大学院生のための環境教育セミナー	10
3 全国大学生環境活動コンテスト実行委員会	第9回全国大学生環境活動コンテスト(ecocon2011)	30
4 国際自然大学校	2011年度 夏キャンプ活動報告書の配布・普及事業	5
5 アサザ基金	牛久サイエンスフェスタ～カッパ大交流会～	13
合計		63

(2) 環境保全に関する情報の収集及び提供並びに啓発普及

（事業予算計1,512万円、実績計1,400万円）

①「市民のための環境公開講座」の開催（予算1,000万円）

公益社団法人日本環境教育フォーラム・株式会社損害保険ジャパンと当財団が共催にて開講している本講座は19年目を迎えました。

当年度の講座は、通年講座を基本として残しつつ、特別講座として新たに「女性」や「学生」層の受講者を拡大するための講座や、対話型・体験型の形式で多様なニーズに応える講座を企画しました。

通年講座のテーマは「①森と水 生命の源」、「②大地・海・宇宙 自然の驚異」、「③『環境』の20年 リオ+20の節目を前に」とし、各パート3回、合計9回開催しました。

特別講座は、「鎮守の森を歩いてみよう」「環境のしごと就いて」「おとなのソトあそび～食べる自然体験～」「今からはじめるネイチャーフォト体験」の4つを開催し、通年講座とは異なった層の参加者が始めて本講座を知る機会を設けました。

また、東日本大震災復興支援シンポジウム「復興からの新たな国づくり～持続可能な社会に向けて～」を開催しました。

<受講者の状況> *2011年度の特別講座は4回の合計

2011年度	パート1	パート2	パート3	特別講座	
申込者数	159名	246名	195名	103名	
延べ参加者数 (各パート3回実施)	373名	469名	280名	103名	※年間延べ参加者 1,225名

2010年度	パート1	パート2	パート3	パート4	
申込者数	176名	216名	185名	219名	
延べ参加者数 (各パート3回実施)	406名	412名	268名	308名	※年間延べ参加者 1,394名

2009年度	パート1	パート2	パート3	パート4	
申込者数	133名	218名	177名	168名	
延べ参加者数 (各パート3回実施)	295名	373名	314名	270名	※年間延べ参加者 1,252名

<通年講座の内容>

パート1. 森と水ー生命の源

回目	テーマ	講師	
1 2011年7月5日	地球の生命の源泉～水と森～	月尾 嘉男	東京大学名誉教授
2 2011年7月12日	最も美しい森林は、 また最も収穫多き森林である	速水 亨	速水林業代表
3 2011年7月26日	森と水～いのちの神々～	藺田 稔	秩父神社宮司 京都大学名誉教授

パート2. 大地・海・宇宙ー自然の驚異

回目	テーマ	講師	
1 2011年9月6日	火山の驚異と真実	荒牧 重雄	山梨県環境科学研究所所長 東京大学名誉教授
2 2011年9月13日	「豊饒の海」であることの意味を考える	北里 洋	海洋研究開発機構(JAMSTEC) 海洋・極限環境生物圏領域長
3 2011年9月27日	「はやぶさ」～地球帰還までの7年間～	川口 淳一郎	宇宙航空研究開発機構(JAXA) 宇宙科学研究所所長

パート3. 「環境」の20年ーリオ+20の節目を前に

回目	テーマ	講師	
1 2011年10月18日	NPO・NGOの台頭と環境政策	小林 光 藤井 絢子	慶應義塾大学大学院教授 NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク代表
2 2011年10月25日	自然保護の20年	市川 博也 横山 隆一 小林 光	国際教養大学教授 公益財団法人日本自然保護協会理事 財団法人自然環境研究センター上級研究員
3 2011年11月8日	環境ジャーナリストが見た20年	原 剛 石 弘之 コーディネーター 岡島 成行	早稲田環境塾塾長 東京農業大学教授 公益社団法人日本環境教育フォーラム理事長

<特別講座の内容>

回目	テーマ	講師	
1 2011年10月1日	鎮守の森を歩いてみよう	藺田 稔	秩父神社宮司 京都大学名誉教授
2 2011年10月22日	環境のしごとに就いて (ワークショップ)	青木 将幸 上田 壮一 宇都 由起 向山 玲衣 横山 昌太郎	青木将幸ファシリテーター事務所 株式会社スペースポート NPO法人国際自然大学校 NPO法人アサザ基金 NPO法人ビッキオ
3 2011年11月5日	おとなのソトあそび～食べる自然体験～	蓮池 陽子	フードコーディネーター
4 2011年11月26日	今からはじめるネイチャーフォト体験	森本 二太郎	自然写真家

<東日本大震災復興支援シンポジウム>

東日本大震災の発生を受け、震災からの復興を考える機会として、東日本大震災復興支援シンポジウム「復興からの新たな国づくり～持続可能な社会に向けて」を開催しました。基調講演に植田和弘氏を招き復興計画の全体像と課題を知るとともに、現場で活動するNPOやメディア、研究者の立場から復興の今後のあるべき方向についてパネルディスカッションを行い、当日参加の110名の参加者の皆さんと共に考える機会となりました。

また、今年度の市民のための環境公開講座の受講料は、本シンポジウムにも登壇いただいたRQ市民災害救援センターへ、復興支援のための資金として全額寄付しました。(537,717円)

日程	テーマ	講師	
2011年12月6日	東日本大震災復興支援シンポジウム 復興からの新たな国づくり ～持続可能な社会に向けて～	基調講演 植田 和弘 パネリスト 畠山 信 広瀬 敏通 原田 勝広 石川 幹子 コーディネーター 岡島 成行	京都大学大学院 教授 東日本大震災復興構想会議 検討部会委員 NPO法人森は海の恋人 副理事長 RQ市民災害救援センター 総本部長 日本経済新聞社 編集委員/明治学院大学 教授 東京大学大学院 教授/宮城県岩沼市震災復興会議議長 公益社団法人日本環境教育フォーラム 理事長

②各種シンポジウム・研究会への協賛（予算100万円）

環境問題の普及・啓発活動に対し、4件（73万円）を助成しました。

（単位：万円）

	団体名	プロジェクト名	実績
1	環境文明21	2011年度経営者「環境力」大賞	10
2	「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議	ESDの10年ラストスパートBOOK 制作・配布	30
3	東京ボランティア・市民活動センター	第20回全国ボランティアフェスティバルTOKYO	3
4	菜の花プロジェクトネットワーク	第8回菜の花学会・楽会 in 東近江	30
合計			73

③「いきものにぎわい企業活動コンテスト」への協力

生物多様性保全推進のための顕彰制度（主催：いきものにぎわい企業活動コンテスト実行委員会（経団連自然保護協議会、国土緑化推進機構、日本アロマ環境協会、水と緑の惑星保全機構、地球環境行動会議、後援：環境省、農林水産省）への協力を行いました。コンテストのうち、市民活動を対象とした顕彰「いきものにぎわい市民活動大賞」に協力団体として参加し、当財団の過去の助成先団体から複数の候補を推薦したうえで、認定委員会にて選考を行い、損保ジャパン環境財団賞として「特定非営利活動法人霧多布湿原ナショナルトラスト」を表彰しました。

(3) 環境保全のための活動に従事する団体及び個人に対する助成

（事業予算計470万円、実績計431万円）

①「環境保全プロジェクト助成」（予算300万円）

今年度も引き続き公募助成を実施し、43件の応募をいただきました。11月17日の認定委員会において11件を選定し助成しました。

その後、地方を中心として（株）損害保険ジャパンの各支店と共に助成先へのヒアリングを兼ねた贈呈式を行い、団体のプロジェクトについて、その理念と活動内容を確認する機会としました。

(単位:円)

NO.	団体名	都道府県	プロジェクト名	実績
1	認定特定非営利活動法人 北の森と川・環境ネットワーク	北海道	蒜沢川河畔林再生プロジェクト	300,000
2	わたらせ未来基金	栃木県	わたらせ遊水地湿地保全再生プロジェクト	299,808
3	特定非営利活動法人 河北潟湖沼研究所	石川県	石川県河北郡における潟と砂丘を繋ぐ 循環型社会づくり	300,000
4	特定非営利活動法人 印旛野菜いかだの会	千葉県	印旛沼絶滅危惧種の 水草再生と体験型環境学習	300,000
5	特定非営利活動法人 荒川クリーンエイド・フォーラム	東京都	荒川発 絶滅危惧種の復活プロジェクト ～ヒヌマイトトンボが羽ばたく 水辺を取り戻すために～	296,000
6	特定非営利活動法人 環境文明21	東京都	都市と農村との連携でつくる環境と健康に 配慮した「食と農」の実践活動	300,000
7	特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク	東京都	山村地域の営みと自然の再生による 里地里山の生物多様性の保全	200,000
8	特定非営利活動法人 ビーグッドカフェ	東京都	都市と農村との連携で耕作放棄地の再生を 目指すオレンジプロジェクト	300,000
9	伊勢・三河湾流域ネットワーク	愛知県	身近な海である伊勢湾・三河湾発見!	180,000
10	川跡ビオトープ友の会	島根県	きつずbioくらぶ よみがえれ水辺の生きものたち	250,000
11	特定非営利活動法人 大分トンボの会	大分県	野依新池のベッコウトンボの 保全活動と啓発活動	300,000
助成金合計				3,025,808

(4) 環境保全に係わる学術研究に対する助成 (事業予算計607万円、実績計460万円)

①学術研究助成 (予算150万円)

4件の応募があり、8月10日の選考委員会において3件を選定し助成しました。過去からの累計では52名に助成し、うち23名が博士号取得に至りました。

(単位:万円)

申請者	所属大学院名	研究テーマ	推薦者	実績
1 吉村 武洋	一橋大学大学院経済学研究科	都市緑地の保全財政システムに関する研究	一橋大学大学院 経済学研究科 教授 寺西 俊一	30
2 中山 翔太	北海道大学大学院獣医学研究科 環境獣医学講座 毒性学教室	ザンビア共和国で進行する重金属汚染のヒト・ 野生動物への影響評価およびザンビア大学、 ザンビアの政府関係機関と連携した環境政策 の実施	北海道大学大学院 獣医学研究科 環境獣医学講座 毒性学教室 教授 石塚 真由美	30
3 浅井 優一	立教大学大学院 異文化コミュニケーション研究科	フィジーにおけるコミュニティレベルの沿岸資源 管理活動に関する環境人類学的研究	立教大学 異文化コミュニケーション研究 科 社会学部 教授 阿部 治	30
助成金合計				90

②企業と環境問題研究会（予算450万円）

研究会として新テーマを「気候変動への『適応』～主として自然災害リスクへの対応～」とし、座長に西岡秀三氏（国立環境研究所特別客員研究員、元国立環境研究所理事）を迎え、研究者および損保ジャパングループ会社社員を委員とし、研究を開始しました。

<開催実績とテーマ>

第1回 5月26日：研究の具体的な方向性についての意見交換

第2回 8月10日：保険から見た適応とは何か（第1回）

－損保ジャパン商品業務部、NKSJ リスクマネジメント社の報告

第3回 9月26日：保険から見た適応とは何か（第2回）

－損保ジャパン商品業務部、NKSJ リスクマネジメント社の報告

第4回 12月16日：気候変動への適応に関する現状の認識と今後の研究会の進め方

－環境省地球環境局国際連携課国際地球温暖化対策室長

関谷毅史氏による COP17 成果報告と今後の見通し

第5回 1月26日：水災リスク評価モデルの研究と今後の進め方

－京都大学防災研究所教授 寶馨氏、京都大学学際融合研究教育推進センター特定准教授 小林健一郎氏、

NKSJ リスクマネジメント社の報告

第6回 3月26日：東京都の水害対策と自治体からみた適応、今後の研究会の進め方

－国立環境研究所 脇岡靖明氏、

東京都環境局環境政策部環境政策課 市橋新氏

(5) その他の事業

①「損保ジャパン・首都圏ふれあいの森」事業への支援

株式会社損害保険ジャパンは、埼玉県嵐山町の森林（8.29ha）について、CSR推進の一環として森林づくりに関する協定を2009年3月に締結しています。

今年度も以下の通り、プログラムづくりや当日の進行に関して、森林協定のパートナーであるNPO法人樹木・環境ネットワーク協会と全面的に協働のうえ実施しました。

（第3回は雨天のため中止）

<第1回> 平成23年 6月18日（土） 植樹・間伐 約170名参加

<第2回> 平成23年 9月10日（土） 下草刈り 約 30名参加

*平成23年11月19日（土） 予定の間伐は雨天のため中止

2. 庶務の概要（平成23年7月1日～平成24年3月31日）

（1）役員に関する事項

役員等の氏名は次の通りです。（常勤者に「常勤」表示） *平成24年3月31日現在（50音順）

役 職	氏 名	備 考
理事長	佐藤 正敏	株式会社損害保険ジャパン 取締役会長
専務理事	福井 光彦	（常勤）前 株式会社損害保険ジャパン 常務執行役員
理事	伊東 俊太郎	東京大学名誉教授
理事	岡島 成行	公益社団法人日本環境教育フォーラム 理事長
理事	小島 麗逸	大東文化大学 名誉教授
理事	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会 理事長
理事	森寫 昭夫	特定非営利活動法人日本気候政策センター 理事長
監事	斎藤 昭一	公認会計士 日本化薬(株)社外監査役
監事	新里 智弘	公認会計士
評議員	大河原 良雄	財団法人世界平和研究所 常勤顧問
評議員	大塚 義治	日本赤十字社 副社長
評議員	加藤 三郎	環境文明研究所 所長
評議員	小林 料	前 東京電力株式会社 顧問
評議員	杉崎 重光	ゴールドマン・サックス証券株式会社 副会長
評議員	高橋 薫	株式会社損害保険ジャパン 取締役常務執行役員
評議員	鳥居 泰彦	慶応義塾学事顧問
評議員	中野 良子	公益財団法人オイスカ 会長
評議員	三重野 康	元 日本銀行 総裁
評議員	三橋 規宏	千葉商科大学名誉教授
評議員	安田 喜憲	国際日本文化研究センター 教授
評議員	吉川 弘之	独立行政法人科学技術振興機構研究開発戦略センター長
評議員	涌井 洋治	日本たばこ産業株式会社 取締役会長
認定委員	阿部 治	立教大学 教授
認定委員	市川 博也	国際教養大学 教授
認定委員	原 剛	早稲田大学環境塾 塾長、元早稲田大学大学院 教授
認定委員	福井 光彦	公益財団法人損保ジャパン環境財団 専務理事
選考委員	石川 秀洋	NKS Jリスクマネジメント株式会社 社長
選考委員	植田 和弘	京都大学大学院 教授
選考委員	大塚 直	早稲田大学 教授
選考委員	関 正雄	株式会社損害保険ジャパン 理事 CSR統括部長

(2) 職員等に関する事項

平成 24 年 3 月 31 日現在の従業員は次の通りです。

区分	氏名	就業年月日	備考
事務局長	社員	平成 23 年 10 月 1 日	(株)損害保険ジャパンより出向
職員	社員	平成 19 年 7 月 1 日	(株)損害保険ジャパンより出向
スタッフ	派遣社員	平成 18 年 9 月 4 日	(株)キャリアビューローより派遣

(3) 役員会等に関する事項

①理事会の開催

開催日	会議事項	結果
(理事会の決議があったものとみなされた日) 平成 23 年 8 月 25 日 第 1 回通常理事会 (定款第 4 3 条に定めた理事会の決議の省略方法による)	第 1 号議案：定時評議員会開催の件 第 2 号議案：平成 2 3 年度（平成 23 年度 6 月期）の事業報告および決算承認の件 第 3 号議案：平成 2 3 年度（公益財団法人移行後第 1 期）の事業計画および収支予算等の件 第 4 号議案：役員報酬の件	各議案とも、決議に参加できる理事全員の同意が得られ、かつ監事の承認が得られた
平成 23 年 9 月 22 日 第 1 回臨時理事会	第 1 号議案：事務局長選任の件（7 月 1 日付） 第 2 号議案：事務局長選任の件（10 月 1 日付） 第 3 号議案：委員会設置及び委員会の任務、構成ならびに運営等に関する事項の件 第 4 号議案：委員会委員の選任の件 第 5 号議案：諸規程の制定及び改定の件 第 6 号議案：基本財産の指定の件 報告事項：諸規程・規則の制定及び改定の件、職務執行状況の件	全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員了承
平成 24 年 3 月 22 日 第 2 回通常理事会	第 1 号議案：専務理事選定の件 第 2 号議案：役員報酬の件 第 3 号議案：平成 24 年度事業計画および収支予算の件 第 4 号議案：役員旅費規程承認の件 報告事項：理事の退任の件、理事の選任の件、役員退職慰労金支払の件、平成 23 年度年度事業経過報告、職務執行状況の件	全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員了承

②評議員会の開催

開催日	会議事項	結果
平成23年9月22日 第1回定時評議員会	第1号議案：平成23年度（平成23年度6月期）の決算承認の件 第2号議案：役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程承認の件 報告事項：平成23年度（平成23年度6月期）の事業報告の件、平成23年度（公益財団法人移行後第1期）の事業計画及び収支予算等の件、役員報酬の件	全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員了承
平成24年3月22日 第1回臨時評議員会	第1号議案：理事の選任の件 報告事項：理事の退任の件、役員退職慰労金支払の件	全員一致で承認可決 全員了承

(4) 許可、認可および承認に関する事項

該当はありません。

(5) 寄付金等に関する事項

寄付の目的	寄付者	金額
財団の運用財産として	ちきゅうくらぶ社会貢献ファンド（損保ジャパン）	5,000,000 円
財団の運用財産として	法人	1,820,000 円

(6) 主務官庁指示に関する事項

該当はありません。